若　者

ドイツ雑感

吉　野　勝　美*

早いものでドイツから帰国してほぼ一年たった．一昨年の十月から昨年の九月迄，ベルリン（Berlin），ハーン・マイトナー（Hahn Meitner）原子核研究所に客員研究員として勤務していた頃の事が，うまかったワイン，ビールのことが懐しく思い出される．それにしても今年のドイツ勢のモントリオールオリンピックでの活躍はめざましかった．確かにドイツ人はだいたいごつい体をしている．私を呼んでくれたシュミット（W. F. Schmidt）博士が187cm，98kgといっていたがちっとも目立たない．私のグループで私の次に小さいのが180cmもあったのだし，自転車を借りると女性用でも短足な私には一寸乗りにくい．日曜日の新聞には結婚相手を求める公告が載っており，そこには職業，性格，身長，体重等何でも書いてあるが，女性でも175～185cm位の人がいくらでも載っている．とにかく大きい．しかしなぜ東ドイツ（DDR）が金メダル40コ，人口が数倍もいる西ドイツが10コと大きな差が出たのだろうか，体格が全く同じなのに．もちろん国家的な援助，保証，施設等いろいろなこともあるだろうが，結局たとえれば日本でも一寸過酷なスポーツは地方出身の選手が活躍し，東京等の大都市部ではボールゲームなら別，それ以外は余り激しいものは好まれないことと類似した現象ではなかろうか．人のつながりの緊密な地方では郷土の期待にこたえねばという気持と，又実際やりがいがあり，長い間英雄的にもなれるだろう．ぼう大な人口で人のつながりの疎な大都市では無理して頑張っても結局たいして得にもならぬという考えがあるのではなかろうか．小生大阪に来て十五年以上にもなるが，いまだに例えば甲子園で大阪勢が活躍しても余りうれしくもない．出身地方勢が活躍するととてもうれしい．多くの人がそうではないだろうか．新しいDDRという国にはスポーツを通して愛国心を育て，充実させるということは極めて大事なことであろう．

日本を発つ前にはいろいろの方から仕事は二の次，体験をつめば充分，いろいろ見て来いと聞かされたが，しかしやはりそこで給料を貰う身，少し仕事がまとまりそうになってやっと落ちつけたと思う．小生の下宿は西ベルリンのはずれ，ポッダム（Potsdam）に接する有名なベルリンの壁からわずか50m足らずの所にあった．私もそうだったが，普通ベルリンと云えば，東京や大阪のようなコンクリート建築物のつづく，壁に囲まれた大都市を想像するが，なんと巨大な林や森，多くの美しい湖を含んでいるのは驚きであった．私の下宿の近辺になると，色々な小鳥や鷹の類はもちろん，野ウサギ，リス，野性の鹿等多くの動物が頻繁に現れる．奈良の鹿と違って本当に野性であるから近づくと逃げる．驚くなかれ狐（きつね）さえ現れる．近所に住んでいたPolizei氏（警察官），大きなSchäferhund（シェパード）を飼っていたのだが，ある日これをつれて森を散歩していた所バッタリと狐と出合った．びっくりした双方，なんとパット飛びかかって噛み付いたのは狐の方，大きなSchäferhundはおかげで狂犬病のような病気になり入院してしまった．ベルリンと云えば最も有名なのが取り巻く壁，壁の東側（DDR）にはもちろん見張り塔（高さ20m位）があるが，西側にも壁と同じ高さ位の木のやぐらが組んである所がある．不思議なことに，広いベルリンを取り巻く壁のうち，ここ一カ所だけは緩衝地帯の砂場や電線等もなく，壁のすぐ横にDDRの人家が建っている．従って壁をはさんで東西，家が並んでいるわけである．ここ

* 吉野勝美（Katsumi YOSHINO），大阪大学，工学部，電気工学科，講師，工学博士，電気工学，（電気材料，物性）

のやぐらの上に立っていると見ようと思わずとも，しだいに壁の向こうに住んでいる人の顔を憶える．もちろん趣味悪く東側だけをのぞきこんだわけではなく，風通しも良し，また眺めも良いので毎日夕刻このやぐらの上に立っていた．DDRの警備兵が監視塔の上で鼻唄を歌い窓わくをたたいてリズムをとっている音が聞こえる．目の前30cmの壁に手を触れようものなら危険を覚悟せねばならぬだろうが，この近所では数年前に逃亡事件（失敗）があってから最近は静かとのことだった．ここに相当期間立ったから，向うの人も顔を憶えただろう．ある日小さな子供（少し大きな子供がそそのかした様である）が壁の向こうから，“オッチャン”といって声をかけて来た．小生に“お前はベトナム人か？”と云ってきたのである．当時，小生はものすごいヒゲ（髭，鬚，髯）をのばしていたし，（これは帰国前に，日本にかえって来るときには，まさか剃るだろうな，という強力な助言があったので残念乍，剃り落してしまった），その頃，頂度ベトナムの戦況が最終状態の頃だったのでDDRでも連日，テレビでやっていたから話題の中心だったのだろう．“いや日本人だ”と答えると，キョトンとしてそんな国があるのかなと云うような顔をしていた．すると近くにいた少し大きな女の子が（見るように見ないようにしていたが），“そら云っていたでしょう，私の思ってた通りだった”と話していた．それから少し問答が続いたが，子供を呼ぶお母さんの声がしていたし，万一迷惑がかかってもと思ってやぐらを下りた．後から友人に話すと，危険なことをしたな，と云っていたが余り危険とは思えず，むしろ迷惑をかけては，という気持の方がつよかった．しかしそこらに住んでいる人はかなり上層部の人ではないかという話しもあり，その後子供達は毎日自転車に乗ったり，暑いときには裸でかけまわって元気に遊んでいた．もちろんこんなことをしなくても，正式にいくらでも東ベルリン，DDRに入れる．私も6～7回行って見たし，友達も出来た．帰り間際，家内，子供（2歳）をつれていった時，あまり小さな東洋人は来ないのか，ジュースを買おうと並んでいると“あれは中国人だろうか”等と話していた．どうも興味をひくらしい．DDRと云えばポッダムへも行き，サンスーシ（Sanssouci）宮殿も訪れたが少し荒れている感がした．また一室にソ連軍のドイツ解放のあたりの話しに関連した写真が陳列されていたが，なんでここにという気がするのは事情にうといからだろう．ポッダム会議の開かれた所へも行ったが，そこにはソ連，ドイツ，米国，英国，フランス，等の説明はあったが，日本のことについては全くふれていなかったのは少し意外だった．

私の属していたグループは25～30歳位の若い人が多くいた．このグループは液体の研究をやっているのだが化学を専攻した人，電気工学，金属物理の専門の人，更に宇宙線をやっていた人，また長らく軍隊にいた人等，いろいろな経歴の人が集っていた．かなり違う研究分野に思い切り良く変っているのには一寸びっくりした．どこでもやって行けるような，日本と少し違う教育をうけているのだろうか．代数計算や，微積分，方程式の計算等はわれわれ日本人の方がはるかによく（早く）出来ると思う．何度も経験したことだが簡単な計算にかなり手間どっている．しかしすぐに数表，積分表等をとり出して上手に使っている．どうも考えて見るとわれわれは数表等にのっている式の導出を随分訓練され過ぎて，今でも数表を見れば良いのに相変らず数表の証明をやり直さねば気がすまず，無駄もしていると思った．また随分幅広く知っているのもわれわれの特徴のように思う．例えばわれわれは世界中の歴史を習う（もっともインディアンの歴史は習わず，白人がインディアンの住んでいる所を発見したのをアメリカの発見と習うのだが）．社会科学をやっていた人は例えば日本のことでも詳細に知っていたが，他の人は日本のことは例えば日露戦争でヨーロッパ人がまともに初めて東洋人に破れてびっくりする，というような話から習い出したと話していた．また蒙古軍が日本に攻め込んだ元冠の話しをすると，お前の所へも来たのかと，一様にびっくりする．多分われわれはヨーロッパ文明に接近するため，またヨーロッパ史を知らねばはずかしいというような考え方から随分全

員が詳しく勉強させられているのではなかっただろうか．あまり多くの詰め込みが柔軟性を失わすような気もする．ドイツでは高校生も殆，毎日午前中のみの授業のようだった．しかし日本と比べて楽だと云われていた大学入試が今はだんだん難しくなって，日本にむしろ似てきそうである．以前は小学生位の年齢でコース別れしていたのだから大学へ入る人数も比較的少く楽だったのだろう．もう一つ気のついたことは皆がコンピューターを良く使いこなしていることである．それはこの研究所には数字の部門があり，かなりの数の数学者やプログラマーがいて色々助言をしてくれるようになっていることによるようだ．小生の場合特に相棒の奥さんがプログラマーだったので非常に助かった．おかげで若い数学屋の組んだ五目（連珠）ゲームでコンピューターと対戦させられた．難度により7ランクに分れていて（思考時間の違いか），上の方になると長時間考えるので極めて手ごわい．ドイツ人がやると下からせいぜい1～2ランクまでである．プログラムの能力判定に対戦させられたのだろうが，五目の定石みたいなやり方までちゃんとやるし，少し油断すると積極的に攻撃してくる．すべてのランクを一回づつで全部打ち負かしたのでびっくりしていたが，小生もやっとのことだったので，何度もやると次は負けるだろうことは明白なので二度とやらなかったが，日本人に勝てるようにプログラムを変えると云っていた．

先に軍人の話しをしたが，ドイツで一番驚いたことの一つは徴兵制があったことである．（もっとも軍隊といっても専守防衛ということになっているようだが）．殆どの若い人が空軍にいた，戦車隊に，海軍にいた等と話していた．通常は一年前後だが希望すればもっとおられるそうで，友人の一人は海軍に3年いたと云っていた．DDRでも，友人の奥さんの方が頂度数カ月の訓練で家にいないということだったから同様であろう．（尚この奥さんは大学生であったが，DDRでも男女交際はかなり自由と見た）．ヨーロッパのように色々の人種が地域的に入りくんで，長い歴史上，常に戦をくりかえして来た経験からすると考え方も日本人と多少違って当然だろう．

ドイツ人はまた故郷愛が甚だ強い．デンマーク近傍の田舎町の出の人，バイエルン出身者，ベルリン生れの人，夫々自分の故郷を誇りに思っていた．地方へ行くと殆どどこでもドイツの国旗のほかに，その地独特の旗等がなびいている．旗やバッヂが好きなのはヨーロッパ人皆のようで，東ベルリンのペルガモン（Pergamon）博物館へ行ったときも，言葉が良く通じなかったが人のよさそうな，ロシヤかポーランド人のようなおばさんの団体が来ていて，私の小さな娘をみつけ博物館の説明そっちのけで寄って来て，バッヂをたくさんくれたこともある．

若い人と年輩の人の間の考え方のギャップはここでも矢張り大きい．事情が日本に似ている．アメリカの影響だろうか．若い人はあまり子供をつくりたがらない．研究所でも，若いのはマニュアルを見ずに装置を使うから困るとか，昔は皆手作りもしたのにこの頃はぜいたく云ってこまる，というような苦情を聞いたりして興味深かった．

現在日本人はどこへ行っても比較的居心地が良いのではないかと思う．少くとも小生はどこへ行っても良かった．日本が経済的に著しく伸び，工業が発達していることを知っていて日本人に一目おいていると考えられる（もっともその為，逆の場合もあろうが）．例えばベルリンである日本人の医師がギリシヤ人の医師と共同でアンケート調査をなされ，私にもアンケート用紙がまわって来た．そこで結果が出れば送って下さいと書いておいた所，帰国直前にアンケート結果を送って来た．その中で日本人とギリシャ人のホームシックにかかる比率に関するものがあった．日本人10％余り，ギリシャ人90％位だったと思う．日本人が精神的に特別タフとは思えない．置かれている立場を反映しているのだろう．かっての栄光あふれる古代文明をきずいたギリシャ人がである．日本人であること自体である意味で得をしているように思う．現在のわれわれが特別に優秀でも，またより以上に働いているとも思われないのに．油断すれば必ず落ちこむだろう．資源が乏しく，人口密度だけが高い日本が豊かな生活が出来るのが不思議

な位である．日本と同じような境遇と考え勝ちなドイツでさえ200年分の石炭はゆうにあるという（今は石油の時代で石炭なんかは，とは考えたくない）．ロシヤはあの腹立たしくなる位な巨大な領土，どこまで飛んでもロシヤだ．何が埋っているかわかったものでない．世界は不平等である．

滞独中周囲の人達，研究所の方々，下宿の家族やその友人，近所の人々皆がとても親切にしてくれた．ベルリン滞在中の日本人の方にもずいぶんお世話になった．ほんとに良い経験が出来たと思う．今でもドイツ，ベルリンの話しが出ると特別の情がわく．われわれ日本人も訪れる外人，特に東洋人をもっとあたたかく迎えるべきだと痛感した．

研究所ではもう一年残らないかと云ってくれたが残念乍，日本の事情を考えると帰らざるを得なかった．日本に帰って研究室へ出て来た時，一生懸命（時間にもこだわらず）研究をしている友人，学生を見て感激した．日本もまだまだいけるはずだ．

思いつくまま原稿を書いて読みかえしてみると，自分の狭い経験から独断になっている所，どうも差し障りのありそうな所が多く，切って切ったら，ますますまとまりのない話しになってしまった．